

おもしろいね！が、きっとみつかる

シニア世代の地域デビューを応援！
～アッティーヴォ～

attivo

みやシニア
活動センター
通信 vol.33
(平成30年10月発行)

ボランティア精神旺盛なシニアたち!!

近年、「想定外」の災害が全国各地で発生しています。特に、今年は、台風による「想定外」の災害が多く発生しました。

台風12号は、通常の進路とは逆の東から西へ進み、台風21号は、大型で勢力も強く観測史上1位となる暴風雨により、関西空港に架かる連絡橋にタンカーが衝突するなど、関西地方を初め、全国各地に甚大な被害をもたらしました。

「想定外」は、滅多にある訳ではないはず。なのに、こんなに多くあるのは何故だろう。

鹿児島出身である私には、特に小学校の頃、多く台風が鹿児島県に上陸した記憶があります。父親が、自宅の雨戸に斜めに板を打ち付け補強したり、外に出している鉢を家の中に入れていました。3日間、停電が続くこともあり、当然、学校は休みになり、子供のころは、それがとてもうれしくも思え、台風に対する恐怖はありませんでした。

その後、母が一人暮らしで鹿児島にいる時は、鹿児島に台風が上陸する予報が出ると、心配でしょっちゅう電話をかけていましたが、その母も昨年亡くなり、あまり台風の鹿児島上陸を気にしなくなりました。

今、私は宇都宮市に住んでいますが、宇都宮は災害が無い良い所だと聞きます。事実そうだし、自分でもそう思います。しかし、「想定外」が気になります。

今回はボランティア活動でご活躍されている、素晴らしい3人の方を紹介します。(肥後特派員)

①



②



③



① 頑張れ！となりのミヤちゃん

笑楽マジック友の会 代表 宮崎キクさん

② 日々の充実はボランティア活動から

SDOサポート27 会長 松浦正夫さん

③ 鶴田沼の自然とともに、19年!!

鶴田沼の自然を育てる会 会長 森島邦昭さん

「attivo (アッティーヴォ)」とは、イタリア語で「活動的な、行動的な」という意味です。

① 頑張れ！となりのミヤちゃん 宮崎キクさん

取材：肥後特派員

今回は、御幸町在住の宮崎キクさんの登場です。ミヤちゃんは、最近とんと町で見かけなくなったおしゃべり、おしゃべりで、なんでも顔を出す「おせっかいおばちゃん」です。しかし、本当のミヤちゃんは自分の事より人の事を優先してやる、涙もろい、そして、心優しい浪花節のおばちゃんです。



【綺麗な衣装で!!
宮崎キクさん】

ミヤちゃんはこの30年間、ボランティア活動に関わってきました。人の前に出て芸を披露し、人々を喜ばす。これを生きがいにしてきました。その芸とは、45年習ってきた民謡であり、マジックであり、竹踊りです。そのために必要な衣装作りにお金をかけ、マジックのネタを仕入れに東京にも出向く。その様な事を重ねながら、これまで頑張ってきました。見てくれている人が楽しんでいるのを見ると、何ものにも代えがたい喜びが湧いてくるとのこと。その為には、派手な衣装や小道具、ネタも必要なんです。

ミヤちゃんは、平成25年10月に「シルバー大学校中央校」に入学しました。人と人とのつながりを広げるだけでなく、ボランティアの意義を再確認し、更に自分の行動範囲を広げていこうと思ったからでした。それまでのミヤちゃんは、個人でボランティア活動を行っていましたが、シルバー大学校に入ってから、団体で仲間と一緒に活動するようになりました。これにより、一つの芸だけではなく、民謡、マジック、竹踊りをコラボしてやるようになりました。こうして取材をしている最中でも、民謡のボランティアの打合せの電話が入ってきました。ミヤちゃんは、この半年間で8キロの減量に成功しました。それも大好きな衣装をもう1度着て、マジックをやりたい一念からです。

ミヤちゃんの人柄を表すエピソードがあります。

ミヤちゃんはシルバー大学校在学中、ウォーキングクラブに所属していました。現在も、そのOB会である「35げんき会」に所属していますが、ここでは毎月、例会が行われ、関東一円に日帰りのウォーキングに出かけます。忙しいミヤちゃんですが、前の日から参加者全員がバスの中で食べられるようにと里芋を煮たり、煮卵を作ったり、漬物を準備したりと大忙しです。漬物の嫌いな友人からはブーイングが出ることもありますが、皆が喜ぶ顔を見たいのです。また、小物入れを作って、皆に配ったりもします。2、3個ではありません。40個、50個の単位です。

また、料理の達人であり、栃木の郷土料理「しもつかれ」のコンテストに出場したり、キノコ採りの名人でもあり、湯西川や福島の方面に、年に何回か出かけます。それはもちろん自分も食べるのですが、人に配る目的で行っているのです。何をしても人を喜ばせたい人なんです。

今回、ミヤちゃんは「笑楽マジック友の会」を立ち上げました。栃木県マジシャンズクラブ連合会にも所属しています。9月24日には、宇都宮市文化会館で第2回栃木県マジシャンズ大会が開催され、「笑楽マジック友の会」も出演し、得意な芸を披露しました。そんなミヤちゃんも、今年で74歳。それでもまだまだ現役です。仕事もしています。お酒も飲みます。だんだん弱くなり、すぐ寝てしまっていますが。

ミヤちゃんには、「3・2・1・0」の法則があります。詳しい内容は言えないのですが、その後が続くのは「GO!」です。常に「GO!」の精神でいく。ミヤちゃんの気持ちにぴったりです。そのミヤちゃんに、心から応援を送りたいと思います。末永く頑張ってください。皆、応援しています。



【華麗な竹踊り】

② 日々の充実ボランティアから 松浦正夫さん

取材：石井特派員

「人生100年時代」「生涯現役」、高齢化社会をどう生き抜いていくかが大きな関心事となっています。そのヒントをいただくべく、今回、取材したのは、松浦正夫さん、68歳。



【松浦正夫さん】

退職後は、手帳が埋まるほど、日々ボランティア活動にいきそしみ、充実感に満たされ、老いを感じる暇がないというお話を聞き、「第2の人生はかくありたい」と羨むと同時に、漠然と日々を過ごしている自分を反省させられました。

松浦さんは、県外の企業勤務だったため、幼友達、学友以外に知る人が少なく、退職後は、「人を知る」「地域を知る」という必要感を覚え、まず、地域自治会の役員になって活動開始。現在は、自治会長、雀宮地区自治会連合会事務局長として、会議や地域との協議、地区イベント活動等に大きなエネルギーを割き、「受けたからにはしっかりやる」を信条に

取り組むことで、地域のことが分かり、多くの人々との輪が広がったと実感しておられます。

一方、シルバー大学に入学してからは、学ぶ楽しさの他にアフリカダンスや傾聴ボランティア活動を知りました。アフリカダンスクラブの発表を見た時には、鳥肌が立ったそうです。すぐに入部を決意。衣装やメイクで、全く違った自分になれる開放感に魅力を感じ、レッスンに汗を流し、仲間と語り、依頼を受けた施設や幼稚園等でダンスを披露。観客からの反応が楽しくて、やる気が起きるそうです。

6年前には、大学で初めて耳にした「傾聴」という言葉に引き付けられ、説明を求めたことがきっかけで、傾聴ボランティア「SDOサポート27」に入ったそうです。初対面の相手が、自分を信じて話し始めてくれるのを待つ。うなずき、相槌を打ち、話に詰まってもじっと待つ。それまでの生活の中では感じられなかったものに出会えたそうです。現在、その会の会長を務め、約70名の仲間と分担し合って、20以上の高齢者介護施設等を定期的に訪問し、昨年度の延べ活動人数が1,225名となったそうです。訪問を待ってくれる人がいることも活動の励みになり、研修や勉強会で一層の技術の向上に努めており、「SDOサポート27」は「第23回栃木県民福祉の集い」で県知事表彰を受けました。

ダンスや傾聴の活動を通して、今まで知らなかった地域を知り、一層人脈が広がり、充実した第2の人生をまっしぐら。「細く、長く、気張らずに」、傾聴ボランティア活動はライフワークにしたいと熱く語っておられました。

また、週3回、プールで泳ぎ、体力作りにも怠りはありません。

そろそろリーダー役のバトンタッチを考えているとか。

次は、何に挑戦するのでしょうか。人の輪、地域の輪を広げて、ますますのご活躍をお祈りいたします。

「SDOサポート27」に興味のある方、入会を希望する方は、会長の松浦正夫さん（090-2758-3714）まで。



【表彰おめでとう!!】

③ 鶴田沼の自然とともに、19年!! 森島邦昭さん

取材：猶原特派員

トンネルを抜けるとそこは別世界だった。ここを訪れるたびに川端康成の雪国を思い出します。宮環（宇都宮環状道路）から左折するとすぐに、車1台が通れるほどの樹木のトンネル。そこを通り抜けると、別世界が目の前に広がります。周囲を大木で囲まれた沼地、草が広がり、車の騒音もない緑豊かな、気持ちの落ち着く里山風景に出会えます。



【森島邦昭さん】

ここは宮環に隣接した鶴田沼です。地元の方は「ひょうたん池」と呼んでいます。この鶴田沼と周辺の保全管理を行っている「鶴田沼の自然を育てる会」の会長、森島邦昭さんをお尋ねして、会の活動やご自身のことをお聞きしました。

現在は、会員数は、約35名。主な活動は、里山の管理（植林・下刈り・間伐・遊歩道の整備）や湿原の管理（ヨシ刈り・草刈り）、環境の管理（水質調査・外来種の除去）のほか、自然学習体験（観察会・野菜作り

・クラフト作り）等と広範囲におよびます。平成29年度の実績で、約170回。延べ約2,500名（自然学習体験を含む）の方が活動に参加されています。

森島さんは、消防を定年退職後、第二の人生は自分の心に正直に生きようと決心されたそうです。そんな矢先、鶴田緑地での自然観察会があり、そこで目にしたのが、里山が荒廃し、ゴミだらけの無残な姿だったそうです。

平成11年から、この地域が都市計画地に決定されたのをきっかけに、平成12年5月に有志3人とこの会を立ち上げ、ボランティア活動を始めました。

まずは、ゴミの片づけから始まり、慣れない作業が続いたようです。沼干し、水門改修、沼の浚渫、土手の改修等を行うのに並行して、平成14年からは、植林に取り組み、どんぐりを育て、小・中・高校生や一般の方の協力を得ながら、約6ヘクタール（6町歩）に約3千本のコナラ、クヌギ等を植え、里山の再生に取り組んできました。また、平成19年からは水質調査を始めました。厳しい活動の中で1番記憶に残っているのは、平成23年に行った芝剥ぎ（湿原の表土5cm程度を取り除くこと）により、絶滅危惧種Aランクに指定されている「クロホシクサ」や「ヒナノカンザシ」のほか、「トキソウ」、「ミミカキグサ」、「モウセンゴケ」を復活させたときは、永年の苦勞が実って、大変、嬉しかったそうです。

このような会長や会の皆さんの地道な活動が評価され、平成25年5月の栃木県植樹祭で緑化功労者「栃木県知事賞」を、平成28年2月の下野新聞社主催第12回「下野ふるさと大賞」奨励賞の表彰を受賞されました。

長年に渡り、会長としてご活躍されていらっしゃる森島さんですが、その他にも地域発展のために、自治会活動にも力を入られているそうです。また、趣味として平成元年に結成された「栃木自分史友の会」に結成時から入会され、現在は会長としてご活躍されています。

お元気の秘密は、このあたりに隠されているのかもしれませんが。

鶴田沼地は、東京ドーム6個半の広さがあり、市民の皆さんの「いこいの場」として、四季折々の表情をみせてくれる場所であり、植物や昆虫、鳥類などの生き物にとっても貴重な場所です。この貴重な場所を「鶴田沼の自然を育てる会」の皆さんをはじめ、市民の皆さんで守っていきたく感じました。

○ 発行／編集 みやシニア活動センター（宇都宮市 保健福祉部 高齢福祉課）

住所：宇都宮市旭1丁目1番5号 宇都宮市役所2階 高齢福祉課D8窓口

電話：028-632-2368 ファクス：028-639-8575

ホームページ：<http://www.city.utsunomiya.tochigi.jp>